内外タイムス THE NAIGAI TIMES
1月3日 月曜日 2日発行 昭和30年西暦1955年
発行所 内外タイムス社 東京都中央区銀座3の5 電話(代表)京橋(56)8646
第3965号 (昭和24年6月27日第三種郵便物認可・昭和24年5月27日国鉄特別扱承認第232号)
3版

天気予報 今晩 北寄りの風やゝ強く晴 南部は時々曇 明日 北の風日中やや強く晴 一時曇、気温平年並み

蒋介石総統の近影 うしろは蒋経国氏

遵循國父革命建國的路線 踏着革命先烈前仆後継的血跡 為國家獨立自由而戦 為世界和平安全而奮鬥 中華民國四十四年元旦 蒋中正

蒋総統の揮筆

陳誠副総統の揮毫

一心一徳 貫徹始終 中華民國四十四年元旦特刊 兪鴻鈞

兪鴻鈞行政院長の揮毫

互いに"第一党の夢"

鳩山・吉田架空会見

鳩山は自由党初代総裁、吉田は二代目総裁である。おなじ世帯を賄ってきたこのふたりが口も利かねばあいもしない。それぱかりかかれらが人間同士の憎しみを代表でもするかのように敵対した立場にあるというのは、かれらが悲劇の政治家であるばかりでない。日本人としてドラマチカルな寂しさを感じさせる酷いものがあった。しかも初代総裁鳩山と二代目総裁緒方竹虎は、いまや相対陣して総選挙をたゝかい、猛烈な首班争いを展開せんとしている。

この日、鳩山・吉田の会見は東京品川プリンス・ホテルの奥まった一室でおこなわれた。ズまったく無名の浪人が、このふたりを会わせた、目的は格別なにもなかった。鳩山も吉田もニコニコしていたが、なんといっても硬直したかんじが深い、射し込む春光がいくらかその場のギコチない空気を和げてくれた。【花見達二氏・評論家】

繰返す"オモチャ問答"

『どうだい、君ぁ土佐から出馬するのかい』と鳩山が話しかけた。

『答弁のかぎりでないヨ』吉田が答えた。

『君が出馬するとしたら、君もやっぱりオモチャが欲しいんだネ、いつか君がぼくにオモチャをやろうかなんていったっけネ』

吉田は葉巻をくゆらしながらそれには答えず、しばらくして、

『こうなった以上は自由・民主がシノギをけずるほかないヨ、あたしゃそう信じる、原敬がいつもそういっていた、政治は生首のやりとりだって!』

『そんなことをいったって自由党は何人当選さすんだい? 疑獄だの指揮権発動なんかで演説会さえロクに出来ないじゃないか』

『あたしゃ自由党が何人当選なんて仮定の質問にはお答えできない、ただあたしゃ"謀略の天才"なんだ、自信があるとだけお答えするヨ』

『その謀略も失敗しちゃって跡目相続人に引導を渡されたんだ』

『跡目相続人があたしを倒したんじゃない、悪人たちが倒したんだ—吉田のひたいに青い筋が立って、興奮を現している。鳩山は即座に、

『だれが悪人かをこんどの総選挙が判断して呉れるんだネ、神聖な法律をつくる代議士がその法律を売買するような疑獄をやっておいて、そいつを正当のように君までがいうもんだから、だまってはいられないよ、おまけに外遊中に、政権は鳩山になんか絶対に渡さないなんてよけいなことをいってさい』

あれじゃわれわれも自由党を脱党しないわけにゆかなくなるのは当り前じゃないか』—こんどは鳩山が目を光らせて抗議した。

『とにかくあたしの目の黒いうちは鳩山第二次政権はつくらせない』

『無茶だネ、自由党が社会党と組んで政権をとるつもりなんだろう』

『謀略の天才』だネ。しかし君、民主党が第一党になったら、こいつが政権をとるのは、君が崇敬しているイギリスにしろ議会政治のルールじゃないか、第一、そんなことをして見給え、社会党が統一どころか真っぷたつだ』

『ナニ、第一党はわれわれの自由党だ』

『それは君の腕でも謀略でもできやしない、緒方の腕じゃないか、君と正面衝突した緒方のサ』

そういいながらフト鳩山は感傷的な気分にひたったとみえ、

『君もぼくも、そして緒方も、死んだ古嶋一雄君を仲にしていっしょになったんだ、古嶋がいまごろは草葉のかげで淋しがっているだろうねえ』

吉田は古嶋の顔をおもいうかべたが、それを頭のなかで押しやるようにしてから、いった。

『政治は出たとこ勝負だ!』

鳩山はニッコリ笑って、

『戦前の日本の総理大臣で生きている人は一人もない、戦後の前首相でも君と東久邇さん、片山、芦田の四人でけだ、はくが元老院をつくるから、みなここに入ってもらって後進に忠告の役目でもやってもらうんだネ』

無言の数分間がたつと、思い出したようにふたりはソファーから立ちあがって、別れた

希望の新年を迎えて

蔡長庚

一九五五年の最大の課題は、中国—日本—フィリピン—朝鮮を結ぶ太平洋反共同盟を一日も早く結成して、自由民主主義を基調とするアジアの平和を確立することである。新年を迎えて、祖国の同胞諸賢に謹んで慶祝の意を表明するとともに、同胞一致団結しての協力によるこの課題の解決を誓い合いたい。

一九五四年、共産陣営はマレンコフ、毛沢東の合作によって巧妙な二重政策を打ち出し、内に共産侵略の本来の政策を執拗に進めるとともに、外は偽装平和主義をふりかざして巧みに容共国家群を利用しようとした。この政策はインドにおいて、フランスにおいて、またインドシナにおいて若干の効果を挙げたようだが、今年はさらにこの政策をより以上に強化してくるものと予期される。

これに対して自由民主陣営の現状はどうか。米国を中軸として、一応の団結は見られるが、仔細に検討すればその団結は決して強固でない。早い例が英国はこの陣営の中軸的存在でありながら、ソ連・中共に対して宥和的態度をとり、微かにもかえって共産陣営に乗じられており、またアジアにおいては日本、フィリピン、朝鮮の各国の足並が全には揃わず、その間隙を狙って共産勢力は巧妙に前進を図っている。

この情勢を早くから憂えていた蒋介石総統は、一方において米国を中軸とする世界自由陣営の団結強化を推進するとともに、他方アジアにおいて太平洋反共同盟の結成に努力し、一九五四年は老驥に鞭う壮者を凌ぐ活躍をした。

太平洋反共同盟が完成すれば日本—朝鮮—中国—フィリピンを縦に結ぶ一大堡塁が実現するわけで、この堡塁は共産勢力の東進に対する要害堅固な防壁の役目を果すとともに、逆にまた共産陣営に対する反撃—中国にとっては宿願の大陸反攻の大拠点の役割りを演ずるだろう。

中国の全同胞はいうに及ばず関係各国国民は太平洋反共同盟の一日も早い結成に渾身の勇気をふるうことを、年頭にあたり誓い合おう。（本社々長）

皇居へ年賀の人波

写真(上)は参賀の人波に應えられる両陛下(下)は一般参賀の列—本社特用機上より笹本写真部員撮影

あれから十年、敗戦の虚脱から起ち上った昭和卅年正月二日、両陛下のいや栄を寿ぐとともに新年への希望に満ちた一般参賀者幾十万の足音が本社特別機セスナ号の機上にも身近に伝わってくるようだ

午前九時卅五分、月島東京飛行場を離陸した機は明るい東京上空を一周、新春の東京上空を飛行中である、これは本社と青木航空共催による愛読者サービス初の行事として『気軽な空のタクシー』の初乗り飛行である、九時四十分いま参賀者で埋めつくされた皇居上空にある、整然と大手町ビル街方面まで続く長蛇の列は後を断たないと、一瞬、世界に響けとばかり『万歳々々…』の声が高度百二の機上にコダマする、両陛下が参賀者の前に姿を現わされたのであろう、この声はかつての軍国時代の血塗られた叫びではない、自由と平和を求める八千万の叫びでもあるのだ

それに応える われらの両陛下、右に左に歩をお移しになるのが見える、九時五十分、すでに滞空時間ギリギリに旋回した機は万歳々々のどよめきを後に一路東京飛行場へと向った

一万田蔵相福岡へ 一万田蔵相は二日午前八時羽田発日航機で福岡に向った

四巨頭会談に賛成

極東問題で國際会議

ソ連首相 米記者と会見

【モスクワ一日発AP=共同】ソ連共産党機関紙プラウダその他すべてのソ連主要紙は、一日付紙上で、マレンコフ首相が米国側通信社テレニュースのワシントン支局長チャールス・ショット氏と会見した内容を掲載しているが、それによるとマレンコフ首相はショット氏の質問に対し次のように述べている

一、私はアイゼンハワー米大統領チャーチル英首相及びマンデス・フランス仏首相との会談に反対しない。しかしこのような会談が行われる前に西欧三国が徒党を組んでソ連に対抗してくるものと信ずる

一、極東問題解決に関する、関係諸国間の交渉は歓迎されなければならない、中華人民共和国が他の国諸とともに参加したジュネーヴ会議の経験は、そのような交渉が有益な結果をもたらすことを示している

内外抄

第一党になった夢、三党首が揃って同じ昭和卅年の初夢。おめでたい夢。

◇

四党首の年頭座談会は総選挙前にメンタルテストを受けたようなもの。お互いに忘れまいぞ。

◇

初春にマレンコフさんが揚げた『極東会議』のバルーンに、知らぬ顔の半兵衛ならぬ英米。

◇

捕虜の米兵を返さぬなら中共を封鎖しようと米軍当局。大風呂敷を拡げてみてもねえ。

◇

二重橋事件一周年のきょうの参賀、新国民的行事が出来上り、いよいよ盛んとはめでたし。

浅草の鬼 (38)

濱本浩 栗林正幸画

前号までのあらすじ ◇六区劇場の警備部長河野士郎氏が馬道の暗がりで黒眼鏡の男に短刀で刺され負傷してから、六区劇場は縦生支配人の独断で運営されるようになった。◇縦生支配人は獅子の冬木梅子に触手を振おうとしている。これを助けたのが、同じ舞台を踏んでいる男優旗野梧郎と奥川千恵である。千恵も梅子も梧郎に好意を持っているが、積極的に彼を愛しているのはスリの新子であった。◇ところが梧郎が興味を持ってる女は公園のパン助お富でこよう半年ぶりで偶然にも彼を見つけたので、いつもの所で待っていると、彼女が見なれぬ洋装で現われた。

第三天國（十）

『判ったよ、判ったよ』

梧郎は、お富の腰を抱き締めてむりやりに接吻した。

然し、梧郎は決して、釈然としたわけでなく、あいまいなお富の弁明で、却って、抱いていた疑惑を、裏書きされた結果になった。

そればかりか、お富その者が、その事件の単なる発見者でなく、凶行現場の目撃者か、あるいは事件の関係者でもあるような、気さえするようになった。

だからといって、複雑な事情をこんな場所で、究明できるものではなかった。のみならず、梧郎には、一刻も早く、お富と二人だけの場所へ落ちつきたい、別の理由があった。

『さァ、行こう。久しぶりだぜ』

昂奮した梧郎には、舞台も出番も、念頭になかった。

が、意外にも、お富は、梧郎の腕を、振り切った。

『放してよ、ほら、誰か来るわよ』

憂鬱な、病院の塀と、ミリオン・ホテルの白壁とが、奥山の宵闇に、並んでいた。

桃色の睡蓮に賑うホテルの玄関から、溢れ出した、陽気な燈影が凍った外気に、明るい縞を描いていた。

その光の中を、正しい歩調で、歩いてくるパトロールの靴音を、いちはやく耳にしたお富は、すばやく梧郎の腕を潜り抜けざま、

『十時に、来てみて!』

いい棄てて、小走りに姿を消した。

警官とは、反対の方角へ、梧郎も、後を追うように歩きながら、ズボンから、くしゃくしゃのハンカチーフを掴み出し、口の周囲を、たんねんに拭き取った。

楽屋では、タンカラ・チームの榎と新川が、飽きもせずダイスを振っている。それも、簡単なファイブ・ダイスで、現金を賭けるわけでもなく、ただ、グローブを振りながら、応酬する、へらず口をお互いに楽しんでいるらしかった。

その榎が、人なつっこい顔を梧郎に向けて聞いた。

『安斎部長に逢いましたか?』

『いいえ』

梧郎は、もう顔を塗りはじめていた。

『たったいま、降りて行ったばかりだが、二階へ寄ってるんじゃないかな』

『何かいってた?』

『あとで、また来るそうです』

『ありがとう』

都川の亭主の話では、その前日事件以来の河野氏が上京したという。今日はまた、半年ぶりで、お富が現われ、引き続いて老刑事の安斎が、珍らしく楽屋を訪ねて来た。

梧郎は、それが、決して偶然でなく、何かの連繋を持っているのだと考えていたら、突然、新川六郎がチビの榎に、

『ほかに、お客はなかったっけな?』

と、謎をかける。

するとチビの榎は頓狂な声で、

『旗野さんには、かァなわんよ』

と、一善前人気のあった、寄席役者の声色を使いながら、立って来て、化粧前にピンでとめてあった結び文を、拳に載せ、

『ただでは、取り次ぐつもりじゃア、なかったがねえ』

と、うやうやしく梧郎に、差し出した。

陽光

岩佐東一郎

ふりそそぐ陽光を
裸身に受けて
おんなは妖しい白い花
◇……◇
むせるような
匂いを放ち
雄蜂を待っている花芯よ
◇……◇
このすぐれた
花の竪琴をかき鳴らすのは
小鳥のくちばしか
◇……◇
二つの
乳房の丘のかげで
わたしは眠る牧羊神だ

(写真はキーストン特約)

初春漫画ごよみ

お正月の迷子　長谷川町子

現代化学繊維氏　$C_2H_2+Ca(OH)_2$　アセチリン　晋時代黄初平氏

ヒツジ年イソップ　堤寒三
石を化し合う仙術と化学

羊年の男　九里洋三

ひつじ凧　金親堅太郎

投稿歓迎

スミ書き　構想自由　なるべく時事を織り込んだもの　締切日なし　本社編集局『マンガ』係宛　裏面に住所氏名及び題名を明記のこと　採用の分には薄謝を差上げます　課題マンガは月に二回あります　次回の課題は『トソ気分』です　締切は五日　発表は十日付本欄です

笑いのお年玉

あまからクラブ同人・作

元旦
せめて今日だけでもおメデタクない、といわれたい
―オメデタイ男

七福神
―アレ、変だな、弁天さまが二人いらァ

三ヵ日
―さすがに正月の街はノンビリしてるネ
―借金取りも来ないからよ

初夢
女房を心ゆくまで、ひっぱたいた
―恐妻亭主

カルタ取り
―秋の田の…
―ハイッ、パタン
―天津風…
―ハイッ、ポン
―あの人すごいネ、みんな取っちゃうぜ、両手でパタンパタンはね飛ばし、足でハネ上げて
―バタフライの選手だってサ、ドルフィンキックの
―女が

仕事始め
―野郎ども
―へーイ
―ドジをふんで『御用』始めになるんじゃねェぞ

あすの運勢(三)

高島易断　―一月三日―

▲一月生―すべて初めはよくて後に衰える義あり夜分は注意せよ▲二月生―新規の事は苦労があるが将来栄達有努力せよ事業結婚は大吉なり▲三月生―他動的に災害を蒙り迷いを生じ易い交際外交上には注意▲四月生―目的の機会を一得して誠實に努力すれば人気上り利益ある▲五月生―物事平穏の内に上し利益あり　先輩の引立ある也▲六月生―前後上下の区別なく盲進して意外の失策を招来するに注意すべし▲七月生―不和問題は事を破る静かに稼ぎ大事に努力すれば無事に至る▲八月生―内外の調和を計り至誠をもって事に當れば次第と向上利益あり▲九月生―進退の自由を失い苦境の為に迷いを来り易い注意▲十月生―何事も機を見て敏速に断行して有利▲十一月生―何事も面目を一新して進歩を計る時は栄達あり新業移轉は吉▲十二月生―気迷い自ら苦労を求め困難を招来し失望起り易い注意

モダン歳人記

岡田嘉子入ソ

昭和十三年一月三日午後三時半馬橇にのって南樺太半田沢の警部補派出所に警備員慰問にきた男女二人連れがあった。二人は慰問品を渡すと更に国境線を見物したいと護衛を衝いて警備員と国境の標石の処まででかけていった。そして、警備員の隙を狙い、外套のポケットにピストルを擬しながら北緯五十度線を越えて雪煙りをあげ、ソ連領内に失踪してしまった。そこからソ連側へ二キロ行くとゲー・ペー・ウーの番所がある筈である。

女はインテリ女優といわれた岡田嘉子(卅六歳)男は新協劇団の演出家杉本良吉(卅二歳)だった。嘉子は大正十年有楽座で『出家とその弟子』が上演されたとき、遊女楓に扮して情人山田隆弥の唯円と春画的ラヴシーンを演じ、ついで昭和二年三月日活超特作映画『椿姫』撮影中に、相手役の外松男爵の嗣子でドイツ帰りの竹内良一と駈落ちをした情熱家であり、無類の性欲の所有者と噂されていた。何が彼女をそうさせたかは遂に疑問のままだが、入ソ後杉本は逝き、彼女が赤い都で健在なことは今ではよく知られている。(鮭)

【写真は岡田嘉子】

風流愛情ごよみ　正月の巻

正月は易で地天泰卦にあたる、☷☰という占者の看板にある卦だ、上の真ん中の切れた三本が地で、下の三本が天だ、これが易で一番目出度いことになっている、天は男性、地は女性だから女上位である、女上位が安泰、恐妻が家内泰平とは昔の人はうまいことをいったものだ『松の内わが女房にちょいと惚れ』女房に惚れていれば安全である

▽二日　初荷、書初め、初夢　初夢の宵に姫始めといって新春初の夫婦の生活をする、初めて乗せる初荷、初めて筆を下す書初め、そして夜は姫始めといろいろ忙がしい日である

▽五日　新年宴会　この日宮中では陛下が高位高官の朝臣はいうまでもなく諸外国の大公使も召されてご饗宴を開かせられる、シモジモは彼女と温泉でネチョリンコンと新年宴会? をやるのも乙

▽七日　七草　昔は七草で栄養を補ったそうだが、栄養の補給は現代でも忘れてはいけない
ミキサーに七草かける
ハウザー宗

▽十一日　鏡開き、蔵開き　開きとは江戸時代、女性のある部分をさす隠語に使われた、その字に鏡や蔵の字がついたのだから妙に気を回せば回せるがそんな意味はない、鏡餅をこわして汁粉にして食べる日

▽十五日　成人の日　小豆がゆ　昔はご婦人が回礼するのは十五日過ぎてからだった、これを女正月というが現在では行われない、成人の日といって張切って赤線などへくり込んではいけない

年賀礼回り　お正月はクリスマスと違って日本古来からの家族のお祝いですから夫婦とも着物のお召しが本当ですがデモクラシー下の新夫婦では洋装で結構、ちょっとしたアクセサリーに近代感覚を〃わす工夫をして下さい、基本的エチケットとしては男性はモーニングや紋服の必要はありませんが近所ならオーバーやセーター、ラバソールはいけません、チョッキと上衣だけにしておいて下さい、女性も派手なお召しやアフタヌーン、イヴニングはいりませんがすっきりしたスーツが欲しいものです

年賀状　賀正だけでは誰から貰っても同じです、くどくど書く必要はありませんが家族の様子、例えば誰何歳、某子何歳になりましたというように年令だけを書いても実感と新年らしさがこもります、名前は夫婦連名で出せば一層ほお笑ましいでしょう、これは親類、先輩後輩、先生、知人を問わず活用できます

初詣　成田不動尊の初詣、富士山、双見ヶ浦の初日の出、明治神宮、皇居参賀も日本的で悪くはありませんが、考えてみれば雪崩れに合ったり二重橋の人混みで命を失ったら詰らない話です、近代人はもっと能率的に心を配り神々しい以外に取り得のない初詣に折角の連休を費やすことは褒められないことですから、そこで新婚そうそうならばスキーは如何です、山のゲレンデで銀嶺を滑りながら初日の出を眺めるなんてロマンチックなこと請合いです、また中年ならば温泉旅行をおすすめします、寒いのに海や山でもありませんし、温泉もシーズンではありませんから三ヵ日はゆっくりと新婚気分に浸ることができます、さらにふだん評判の悪いご主人は新年休暇こそ細君サービスの好機です、思い切った都市観光旅行もいいでしょう、今月は修学旅行のアプレ生徒に悩まされることもありません

遊戯　昔から花カルタ、百人一首、双六と相場が決っています、子供があるならばトランプ、花札などいつでもやれるものでは正月の情緒を知らないといわれても致し方ありません　ここは童心にとけこんでやることが一番いいのです、屋外ではタコ、竹ウマ、コマ、羽子ツキも悪くありません、但し原爆すごろく、十二章カルタといった俗悪な趣味のものは遠慮したいものです、これが夫婦水入らずとなると炬燵をはさんで盃をくみ交すというのが通り相場ですがこれに一段と格別の味を加える夫婦のねっとりしたラヴプレイを加えて、日頃見馴れた相手に新鮮味を感ずるのもよいことです、お医者さんごっこをはじめ二人だけで工夫すればいろいろあるでしょう、これでいつまでも新婚気分を保たせる手です

娯楽　お正月に映画に行くことは一応考慮の余地があります、ところによっては正月にやる映画は駄作な喜劇が多く、味わいのあるものが少いことでありますし、また足許を見すかしてベラ棒な料金を徴収されることもあります、その上混んでいるので気の弱い夫婦が足を向けるのにはちょっと勇気がいります、むしろ新春は歌舞伎や新国劇、新劇、スポーツではダブルタイトルマッチや初場所見物の方が当事者が張切っていてずっと魅力に富んでいます

夫婦生活　風邪をひかないことうっかりして火事を起さないことに注意さえすれば大いに結構です

風流世界譚

…(中国)…

よく肥えた羊を連れて売りにきた男がありました。『どうです、この旨そうな、こういう肉を食えば、一晩中でも身体がつづきますぜ』とその男は町のある家の細君に誘いをかけました。『ほんとうに!』と御亭主が近頃衰え気味の細君はうなずいて値を聞きました。『値なんて相手次第でさァ、奥さんならたゞの一回でもいゝですぜ』と意味ありげに申します

細君の女の性理がこの取引に賛成して、男は亭主の留守の家に連れこまれました。だが、男はその一回では羊を渡してくれません、『奥さん、そりゃァひどい、私が下じゃァ身を任せたとはいえませんからなー』そこで二回戦に入りました。しかしその後でも彼は頑張ります。

『これでやっとあいこですよ、奥さん。一上一下!』

さすがにこの上はと細君がためらっているところへ亭主が帰ってきました。そして羊を買っているところだというと

『まァ、正月だ、いゝ値で潔く払ってやれ!』

哀恋邪恋　情死秘話　第十二話

天才ピアニスト心中(一)

邑井玄吉
土端一美画

藤原義江の親友

初夏のそよ風が清々しい夜気をはこんで来る。築地川に近い待合『新駒』の一室。僅かに軒先にのぞいた夜空には、銀砂子をまきちらしたように星がチカチカまたたき、釣しのぶが涼し気な音をたてている。

さっきから、朱塗の食卓を中に向いあっている男女―男は粋な浴衣にきゃしゃな身体を包み広い額に憂愁の影をたたえ床柱に背をもたせたまま何か物思いにふけっている。女はつぶし島田に薄化粧、思い切り観世水を散らした小粋な座敷着。何処からか哀調をおびた新内のつれびき…『ハーさん、どうなすったの、いやにふさぎこんでいるじゃないの、お気分でもお悪いの?』

その声に、男はものうげに眼を開けると、

『なァに何んでもないんだよ、陰気に見えるのは僕の性分だはッは…それより何か冷めたいものがほしいね』

『おビール?…そうそうハーさんは甘党だったのね』

『いや、今夜は特別だ。いつもならサイダーといいたいところだが、今夜はビールでも飲んでぐでんぐでんに酔払いたいんだ』

女は不安そうに眉根をくもらせて、

『だって大丈夫ですか、そんなヤケ酒みたいな…』

『安心し給え、如何に堕落したとはいえ、まだ酒で性根を失うような僕じゃないよ』

やがてビールが運ばれると男はゴクリと一気に飲み干し、

『うまい―これこそ醍醐味というんだろう、ああ今ぞ生き返ったようだ』

と、はじめて柔和な微笑をうかべた男は、しみじみこういって女の顔をみつめるのだった。

この男は、当時(昭和七年)天才ピアニストとしてその名を謳われた近藤柏次郎氏(三)で相手の芸妓は、新橋で指折りの売れっこ、美貌と才気で鳴らした大和家の千代梅(三)。近藤の父親は浅野セメントの技師長で、その次男に生れた彼は、暁星中学時代からテナー藤原義江の親友で、ピアノに堪能だったところから、震災後は藤原の独唱会などにその伴奏者として度々出演していたが、彼が真にその天才を発揮したのは、帝大を出て日仏銀行に就職したものの、無味乾燥なサラリーマン生活に堪えられず、ついに意を決して退職、直ちにフランスに渡り、五ヵ年間ピアノの修業に血みどろな精進をつづけた頃からであった。

彼が、芸妓の千代梅と知り合ったのは、ある宴会の席上であったが、一目惚れというのか、二人は忽ち共鳴してしまい、あうたびにズルズルと深間にはまって行き、今では一日だって会わずにいられないほど深い恋情に結ばれた仲になっていた。

『ハーさん、あなたのその憂鬱は奥さんとお別れになったことが原因じゃないの、ねえ、どうして奥さんとお別れになったの』

近藤は痛いところにさわられたように、眉根をしかめ、

『それは僕にもわからないね、というと不思議に思うかもしれないが、実際そうなんだ。たった半年位の間で解消しちまったのだからね。まァブラくッと別れる気になったというのが一番あたっているだろうね』

55年の人氣女性　指名投票用紙

投票者住所氏名	人氣女性名
	―職業―

送先・中央区銀座三の五内外タイムズ社指名投票係・〆切一月廿日
内外タイムス社

日本晴れ 初春の賑い

装甲車まで待機 皇居、明治神宮へ人波

一九五五年の元旦は北海道、新潟、九州など一部、ところどころ雪の一部地方をのぞいて全国的に好天に恵まれ、初詣でや年賀の人出で賑わった、二日もだいたい全国的にすばらしい上天気で都内の神社や盛り場は相当の人出をみせ、街には初荷の威勢のよいトラックが走ったが、羊の年らしく一般的にはバカ騒ぎもなく静かなお正月風景をみせた【写真は浅草の賑わい】

○…恒例の皇居の一般参賀は二日朝九時から午後三時半まで行われたが、昨年の二重橋事件の二の舞をさせぬよう警視庁では装甲車三台、救急車二台、私服警官六百名を出動、ボーイスカウト約三百名の協力を得て二重橋の正面に参賀者が殺倒しないよう桜田門、馬場先門、和田倉門などから行列をつくらせ参賀に入るという警戒に万全を期してた、参賀者は昨年の事件で敬遠する向きもみられたがそれでも朝九時半には約三千五百人、十時ごろには天皇、皇后両陛下が第一回の挨拶をされるとあってすでに一万二千名の参賀者が押寄せ十時半現在では一万八千三百人（皇宮警察調べ）と刻々ふえているが、昨年の同時刻と比べ約七千名減少している、なお警戒本部ではきょう二日で約四十万を突破するだろうとみている

○…明治神宮は、除夜のカネが鳴りおわるころから早くも玉砂利を踏む参詣人は立すいの余地もない盛況、朝八時ごろまでには六十万人をこえた、これからずっとふえて夕刻までには昨年の二百十一万人をこえて約二百五十万、二日も朝から参拝客がつめかけた

○…二日の浅草観音様の人出は約百万で昨年の二割増、苦しい時の神頼みかお賽銭は千円札も飛びだして約七十万円と昨年の一割増、昨春よりも日本髪の復古調姿が目立っていた、六区の興行街は動けぬほどの人混みで『エーイ、いらっしゃい』というハン天姿の呼込みに映画館は昨年の一割増という混み方、国際劇場の前にはダフ屋がウロウロして正月景気をあおっていた

痴漢?物盗り?

渋谷の夜の女殺し追及

さる卅一日正午ごろ渋谷区猿楽町一田村アパート（管理人田村国雄氏）の二階ル号の六畳の間で夜の女滝野千恵子さん(二三)が布団の中で寝巻姿で怪死している事件について、渋谷署では警視庁捜査一課鑑識課の応援で検死する一方昨一日朝解剖の結果、内臓、左肩、鎖骨、皮下などに溢血点があるほか左首に擦こうがあり扼殺または絞殺で死後二日を経たものと判り同署に捜査本部をもうけて出牛警部係で捜査を開始した

殺された千恵子さんはさる廿七年秋ごろ石川県から国電渋谷駅南口付近で夜の女をしていたが同署に廿二回も検挙された姐御株で付近ではNO・1の噂も高く貯金も約十数万円はあったといわれる

発見された時には部屋に鍵がかかっておらずラジオもついていたまま枕許には千円札二枚、百円札八枚が散らかっていた、初めは病死とみられたため発見者ら多数が出入りして現場が荒され指紋の検出など犯行当時の模様が推測しにくくなっている、なお被害者の局部にローソクのしずくがたれていた点から痴漢、変質者の犯行か、物とりの偽装殺人と見て両面捜査をしている

被害者は客をアパートに連れてくることは殆んどなく、道玄坂付近の旅館を宿にしており、近所の人たちは廿八日昼以後は被害者の姿を見なかったといっている

初撮り初笑い ② 中村メイコ

『福笑い』と笑い較べ 新しい轉機、カンで突破

『私が今年の話題の女性ですって?、そうか知ら、ホッホッホ…』と福笑いの御面相のような大きな口を開けて笑うラジオ・スターのメイコ、売れっ子の彼女は新春二日から早くも仕事始めで、青年会館で舞台稽古という忙しさ、その合間をみて会館の一室で楽しく福笑いのゲームに興ずるメイコ

『アーラ、お口がこんなところについちゃったワ…』と頭をかいて口惜しがるが、いつも変らぬ彼女持ち前の健康的な明るさに迎春のほお笑みがフンワリと包む、その間にも美しく着飾ったオカッパの豆ファンが『メイコお姉ちゃん、お目出とうございます、サインしてネ』と愛らしいサイン攻め、子供たちがへ田舎のバスはオンボロ車、デコボコ道をガタガタ走る…とメイコのヒットソングを歌いだして賑やかな正月風景をえがきだした

ことしで満廿歳、中村五月が本名、昭和九年五月生れでつけた名、その五月を〝メイ坊〟と呼んでいたのがメイコのはじまり、ラジオで一週間に十一番組、一日に平均二回は電波に登場しているという爆発的な人気を築いている、十四色の声を使い分けているがとにかく恐るべき

『今年は舞台に力を入れたい、〝月蒼くして〟などやってみたいワ』と新年の希望をテキパキと話すメイコ、カンがよくて明敏な彼女のことだからキッと新しい転機も乗越えて今年も大きな魅力的の存在になるだろう【写真は福笑いに興ずるメイコさん】

おトソなしの祝宴

ビキニ患者の正月

岸壁を歩いて感無量 〝働ける日がホントの正月サ〟

なつかしの焼津港岸壁を歩く見崎さん一家、右から見崎進氏、二男勲ちゃん、夫人輝子さん、長男重俊君

【焼津発】病は快方に向かい〝正月はわが家で〟の念願もかなったビキニ患者たちは、医師から禁じられたおトソは遠慮したが、母や妻の心こもった正月料理に舌づつみをうち、晴着姿のわが子や近親者にかこまれて物静かなうちにも心あたたまる焼津での新年をむかえた

▽…昨年末、二班にわかれて帰郷した廿二名の患者のうち、焼津の市内、近在で正月をむかえた十七名は、わが家で雑煮を祝ってから市内水産学校通りの第五福竜丸船主西川角一氏宅に集って『おめでとう』をいい合い、例年ならお神酒が出るところを『体にさわるから』と、ことしはお茶と黒豆でささやかな祝宴をはった

▽…『長居は体に毒だから…』と西川氏の注意で一同は早々に辞去したが、そのなかの一人、見崎進さん(三七)＝同市小川町二一六〇六＝は自宅前で遊んでいた二男勲ちゃん(三)にせがまれ、妻輝子さん(三六)長男重俊君(六)をつれて懐かしい焼津港の漁船を見物に出かけた

▽…七年の結婚生活中、家族と正月をむかえたのはこれがはじめてという見崎さんは身軽な丹前姿、勲ちゃんも重俊君も紺のオーバーに紺色ズボン、去年のお正月お父さんに買ってもらったよそ行きの晴着だ、はじめて父子のそろった〝お正月姿〟に和服姿でよりそう輝子夫人もついニッコリ、とおりかかった近所の人が『おめでとうやス』と声をかける、なごやかな見崎さん一家を祝福する新年のあいさつだった

▽…港では、へさきにシメ飾りをつけたカツオ船がきょうも獲物をもとめて出漁してゆく、漁港では正月も休んでいられない、岸壁に横づけになった小型船では五、六人の漁夫が魚の積み下ろしに汗だくだ、見崎さんが近づくと『よオー、しばらく、体はどうかネ』とねぎらった『ありがとう、大分いい』と見崎さんは答えたが、ハリ切って働くかつての仲間をみると、ふと〝安静第一〟のわが身がかえりみられたのか、浮かぬ顔つきであった

▽…『みんなといっしょに働けるようになった日が、本当のお正月サ』と見崎さんはもらしたことがある、この気持は老いた両親、のび盛りの子供をもつほかの患者にも共通のものだろう――一家水いらずの時をすごしながらも『元気で働ける日』をめざして静かに正月を送る患者の表情であった

死の年賀回り

暴走タクシー 五人を殺傷

一日夜七時五分ごろ杉並区下高井戸四の一一七四先で年始回り途中の中央区日本橋本町村田金属店勤務の相川己年さん(三七)と相川さんの長女礼子ちゃん(七)次女洋子ちゃん(六)同店員の中井朗さん(一六)同渋谷光章さん(一六)の五名は後からきた中型タクシーにそれぞればねられ、相川さんと中井さんは頭を打って即死、他の三名は横山病院に収容されたがそれぞれ五日から十日間の傷を負った タクシーはそのまま逃走したので高井戸署で捜査中

酔どれ女轢死

【川崎発】一日午後五時四十分ごろ川崎市堤根二一五先京浜急行線路を酔った廿五、六歳の女が横切ろうとして下り浦賀行電車＝鈴木登運転士(二〇)＝にはねられて即死、所持品なく身許不明だが、夜の女らしい

西武線で老人轢かる

一日午後五時十分ごろ新宿区下合五の八九六西武電車中井一号切りで五十五、六歳の老人が新宿発川越行電車＝野崎秀夫運転士(二一)＝にひかれ即死した、練馬署で身許を調べているが、老人は和服でモチ六切と現金二千二百円をもっており、年始回りの途中らしい

少年15人重軽傷

オート三輪が転ぷく

一日午後三時四十分ごろ北多摩郡大和町芋窪二一九一先村山貯水池付近で埼玉県所沢市所沢四一二三薪炭商小寺源蔵さん(三七)が運転するオート三輪が横転、同乗していた得意先の子供ら十五名が車外にほうり出され、近くの新井、大和両病院にそれぞれ収容されたが、所沢市上安松一二〇五石井孫作さん六男昌一ちゃん(七)は生命危篤、同一二三〇松本とし江ちゃん(五)同一三一八安田貞治さん二男タカシちゃん(五)同六五高田定司郎さん六男正男ちゃん(三)同九七一斎藤金平さん四男堅吉ちゃん(七)の四名はそれぞれ一ヵ月の重傷、他の十名はそれぞれ五日から十日間の軽傷を負った、立川署の調べでは小寺運転手の酔っぱらい運転かららしい

北沢の元旦火事

一日午後八時廿分ごろ世田谷区北沢二の二八〇東京冷蔵（社長渡辺養雄氏）方住宅兼倉庫から出火、同一棟十五坪を全焼、同八時五十分鎮火した、北沢署で原因調査中

独眼灯

○…一日の夜七時ごろ板橋区常盤台西の二三無職梅村さださん(六〇)はお茶飲み友達の新宿区戸塚一の五無職坂口友広さん(六〇)方に年賀の訪問をした

○…近所の人も集まりオトソも回って隠し芸の披露となり、梅村さんは『お目出たい』とばかり得意のノドで義太夫をうなりはじめたところが途中で『ウーン』と苦しみだしていきなりバッタリ

○…付近の医者を呼んだがそのまま冥土行となった、年賀の席がそのままお通夜の席にかわったがこれがホントの極楽往生か―

今晩のラジオ

2日（日）

	【NHK第1】	【NHK第2】	【ラジオ東京】	【日本文化】	【ニッポン放送】
6	00 政治座談会『今年の抱負を語る』岸信介 石井光次郎 和田博雄ほか	00 今年のホープ 提琴ソナタ 渡辺茂夫 チエロソナタ 平井丈一朗ほか	05 今年の経済の動き 15 民謡お国自慢 市丸他 30 タンゴ数え歌 夜明け	00 それぞれなあに 35 よい子の新聞 松本千代子▽ニュース	00 ヴアラエテイ『MS号のゆくえ』初歌い七福神 30 ラジオ夕刊
7	20 新春の祭典 榎本美佐江 照菊 羽山和男 三浦洸一 久慈あさみ 暁テル子 鶴田六郎ほか	00 音楽の窓 野村光一 30 二十代の発言 南鎮順 村岡みどり 塩田令子他	10 録音ニュース 20 落語❶『あわびのし』小さん❷『厄払い』文楽	00 録音ニュース 10 歌はまねく市丸ほか 30 タンゴの祭典	00 新年スター祭り 15 映画音楽の時間 30 劇『明玉・夕玉』
8	30 浪花節『櫓太鼓出世番付』鹿島秀月	05 新春ラジオ公開状 坂田昌一 中谷宇吉郎 小原直 広津和郎ほか	00 クイズもしもしショウ 30 劇『花嫁はどこにいる』佐田啓二 関弘子ほか	00 初笑い金語楼のお正月 金語楼 榮啓子 半正美 30 アチヤコ自叙伝	00 歌うリーグ戦 40 東京どんたく『僕達が歌を歌い終つた時』
9	05 ニュース解説安斎義美 15 新年クイズ祭り『即興劇場』石黒敬七藤浦洸他	00 在外邦人演奏会 田村宏 梶原完 原智恵子 中山悌一ほか	10 東西アルファベット読本 新年版 トニー谷他 40 新春民謡ファンタジー	00 歌謡ゲームゲスト六大会 30 劇『美しき野火』永井智雄 東山千栄子ほか	00 落語芝居『お富さん浮名之横櫛』志ん生今輔他 30 浪曲『戦国情話』麗花
10	00 ニュース・天気予報 15 ラジオ小説『花を指す指』左幸子 池部良ほか	00 新春座談会『人工人間時代』林髞 高橋秀俊 高木純一	05 今日のニュースから 30 常磐津『乗合船恵方万歳』千東勢太夫ほか	00 幾何 清宮俊雄 30 物理 竹内均	00 歌謡曲 歌林伊佐緒他 35 座談会『新春野球界総まくり』中沢不二夫ほか
11	10 海外の話題 20 明日の話題『随筆新年に際して』荻原雄祐作	00 グッドナイトミュージック『パーシー・フェイス楽団特集』	00 録音構成『各地の正月』 40 風流滑稽譚 三津田健	00 現代劇場 10 バッハの提琴協奏曲第2番ホ長調	00 小唄初ざらい花柳小菊 20 新内 朝鳥夢泡雪 40 夢のタンゴ

NHKテレビ

6・00 漫画映画『ジヤツクと豆の木』
6・40 洋琴独奏 即興曲ほか 井口基成
7・20 新春歌の祭典
9・40 新春放談

日本テレビ

6・00 子供新年会
6・30 座談会『1955年の展望』荒垣秀雄 高木健夫 藤田信勝
7・30 寄席中継❶獅子舞❷浪曲 虎造❸漫才 千太・万吉❹落語 金馬他

浪人街道 (25)

木村荘十　野口昂明 画

◆あらすじ◆ 師走も押しつまったある夜、芝山内で謎の死体が三つ転っていた。一人は武士であとの二人は町人風の男である。武士と一人の町人は刀傷だがもう一人の町人はピストルで射たれている。取調べの結果この死骸の陰には奇怪な犯罪が組まれているらしい◆武士は周馬といって神田駿河台に邸を持つ旗本遠藤啓之助と双生児であった。その頃双生児は畜生腹といって闇から闇に葬むられた習慣があった。啓之助と周馬も銘刀二振りを分けて終生他家へやられた。これを知った啓之助は周馬の養父佐久間市兵衛を尋ねて謂を聞こうとしたが、市兵衛は周馬は貰子だといい張り席を立った。あとには娘の綾ばかりが残った。

媚情(一)

啓之助は、それっきり何もいわずに、床の間の掛物を見ていた。

綾も、振袖を膝の上へ乗せて見たり、畳の上へおろしたりしているだけで、何もいわない。

重苦しい沈黙が、何時までも続いている。(あなたは、何か心配事があるのではありませんか)

啓之助は、いいかけて、つばをのみ込んだ。周馬が、殺されて、深い悲しみの中にいる人に、何というまずい語のしかけようだろうと、気がついたのである。

『兄は、このごろ、何かやけになっているように見えましたが…なにか、そうなるような、原因が御座いましたのでしょうか』

綾が、不意に沈黙を破って、そう啓之助に訊いた。

『いえ、一向に…心あたりはありません』

啓之助は、もう周馬を話題にしたくなかったので、簡単に答えた。

再び重たい沈黙が続いた。啓之助は、帰る折を失ったのを、何となく苛立たしく思ったが、その癖少しも帰り度くはないのだ。

二人の間には、平賀源内のつくるエレキのようなものが流れていて、互いに引き合うのを感じながら、どうしても、自由に振舞えない。

その間の悪さに苦しんで、あれこれと考えて、やっと気がついた話題は、やはり周馬のことだった。

啓之助は、唐突に訊いた。

『承りますと、周馬殿の持物は、全部持去られたそうですが…失礼ですが、紙入や煙草入は、どんな品でしたろう。あなたはご存じありませんか』

いってしまってまずかったか、また悲しみを思い出させてと、綾の顔色をうかがったが、綾は、やっと沈黙から解放されて、話すのが嬉しそうだった。

『紙入は、和蘭陀渡りの更紗で御座いました。煙草入の筒はながと袋は茶色の革で、とんぼの緒〆、金具は、銀の牡丹、たしか煙管も銀で六角にうってあったように覚えております』

綾は答えながら、啓之助の傍に置いてある帯刀を見ていた。

『ああ、これにお眼がとまりましたな、お見覚えが御座いますでしょう』

『はい』

『不思議な縁で…この大刀と番われた周馬殿の脇差とで対になるのでしたが…』

『私、その鉄鍔の細い金象眼のうち方が好きで…よく覚えております』

綾は、兄周馬と、見違えるほど似ているばかりでなく、帯刀までもと知ると、周馬と、啓之助に、何か深いつながりがあるのを感じた。

兄を失った悲しみの中ではあったが、それが何か、力強く、頼りある思いがした。

(私はどうしたのだろう。兄上が横死した、この悲痛の底で、この不思議な胸のときめきは)

綾は、そういう自分を恥じた。そういう、自分に戸迷いし、自分を叱ったが、何時までも啓之助に、こうして話していたい気持、もっと、兄の死をなぐさめて貰いたい気持をどうすることも出来なかった。

金の椅子〜狙って〜 ②

流行歌　神楽坂浮子

良きアドバイザーで成功
神楽坂はん子の物真似でデビュー

[illegible]の真似をして入賞したのが、この世界にとび込むキッカケとなった訳だが、いまや先輩はん子にはない近代的な日本調を加味してビクターのホープたらんとしている、デビュー盤『私なんだか変テコリン』『おばこ可愛いや』に続いて『初恋カナリヤ娘』『淡雪化粧』での新人らしからぬ好評は、決して偶然やまぐれ当りでないことを立証しているといえよう

☆…歌手として売出す早道は芸妓になることだと神楽坂へとび込んだ勇気に古賀政男、市丸という願ってもぬ良きアドバイザーがいるのは正に鬼に金棒、こだわらぬ天衣無縫さは大物になる気配十分という(蓼)

激化する丸の内実演合戦
賑かに蓋開く東宝に地の利
都心進出はかるSKD?

アーニー・パイルの返還、東宝の演劇部門強化と同じく音楽舞踊学校を[illegible]カルス界は、年頭か[illegible]ことしのミュージ[illegible]乱が予想されているが、さて実演合戦の関ヶ原、丸の内の景況はどうであろうか、以下正月のお客の内からことしの趨勢を探ってみる(H)

丸の内の実演合戦といっても、これまで毎年正月には宝塚レビューを迎えていた帝劇が、ことしはシネラマ劇場になってしまったので、東宝系の日劇とミュージックホールが同じ屋根の下で妍を競うのみという始末とは相成ったが、銀座通りを一本隔てた向うでは歌舞伎座の吉右衛門劇団、新橋演舞場の菊五郎劇団と松竹同士がお家芸の歌舞伎陣でこれまたせり合っているとはいゝ対照なわけだ

その日劇は改装工事の計算違いから廿八日開場が四日延びて、押し詰った大晦日にやっと開いた、そのウラには柱を何本か取ッ払ったために二階、三階の客席が全部落っこちてしまったなどという噂も伝えられているが、外装、舞台ともに新装成ってお正月を笑顔で迎えられたのは先ずメデタシ、メデタシだ、新春公演第一弾は『新春スターパレード』で恒例によって東宝手持ちの映画スター連のご挨拶や余技御披露、池部良、越路吹雪、岡田茉莉子、柳家金語楼、トニー谷などが出演する、第二週は七日から十三日まで『歌う不夜城』で雪村いづみ、ナンシー梅木、ペギー葉山、笈田敏夫、柳沢真一といったジャズ歌手連のお目見得、そのあとはコロムビア大会の趣向だが、これも松竹が浅草国際で大船スター連を総動員させているのとい、噛み合わせ、地の利がいゝだけ東宝さんに勝ち目はある

片やミュージックホールは、宇津秀男の構成・演出で一日から『東京恋愛大通り』(東京ホリデイ)全廿二景、市村俊幸、益田喜頓、有木山太、山田周平(以上交互出演)NDT、メリー松原、Rテンプル、ジプシー・ローズ、桜洋子等々と出演陣は五十名に垂んとする賑かさ、中でもジプシー・ローズのMH入りはじめての東京の舞台が期待されている

東宝ではさきに県洋二、佐伯謙の両振付師と専属契約したが、こんどは日劇出の舞踊手で、最近いゝ仕事ぶりを見せている平野宏果と一年間の契約を結んだ、またアーニー・パイル劇場返還後の第一回公演も四月一日初日で宝塚歌劇の大作『虞美人』と決定、すでに改装委員会の顔ぶれも決っているので、この春先きにかけての東宝の演劇攻勢展開が注目されている

これに対し松竹陣は主力のSKDを大阪公演に送って肩すかしを食わせてる形だが、これまた部内には都心進出を希望する声も高く、なんらかの動きが見られるものと思われる、従って今春の丸ノ内は東宝系の共食いといった態だが、やはりこれに大松竹が噛み合わなければ事態は面白くなって行かないわけだ

有楽街①東京宝塚劇場②日比谷映画劇場③有楽座④日本劇場

越路吹雪

平野宏果

ジプシー・ローズ

さて、何というかなあ、昨年はラジオも勉強させて貰ったし、今年は看板でない佐田啓二になりたいな　佐田啓二

今までは唯無中でやっただけ、今年は何とかして演技というものを少しでも知りたいと思っております　北原三枝

舞台公演が十四回ある予定ですからね、やりますよ民芸は…、もちろん僕自身もですがね　山内明

五五年度"パリの女王様" 選ばれたムーキー嬢

[illegible]うで『レーヌ・ド・パリ・一九五五』つまりパリの女王様というわけ、選ばれたのはムーキー・グールムロン嬢、ところで王女の流行らした例のザンギリ[illegible]進出したとは、てもおそろしい (AP特約)

映画やぶにらみ　春の渦巻
大映作品

▽…パリに生れてアメリカに育ったバレリーナに京マチ子、能楽の宗家流家元の御曹司に菅原謙二というお膳立、この二人の悲しき恋をめぐって菅原の婚約者に山本富士子、妹に南田洋子、その恋人が船越英二と大映が誇る青春スターの総出演とくればお話もごくお正月向きに甘く出来上がっている

京マチ子と山本富士子が結局異母姉妹だったということで山本は"顔で笑って心で泣いて"悲しくも失恋、菅原と京が結ばれるといったご都合のよいメロドラマで小糸のぶの原作から、演出は新人枝川弘

▽…とにかく邦画各社が松の内に封切る廿本近くの映画でメロものはこれ一本というので、せいぜいメロドラマの定石、それも"サワリ"ばかりを駆け足でつなげている、従って京マチ子がアメリカ新帰朝のバレリーナらしくなくても、能楽界のホープ菅原謙二が柔道の若先生みたいでもいっこう差支えなく、トントン語が進むから正月のお客さんにはじれったくなくていゝだろう、たゞし編集が雑でチョンギレが多いのは不親切だ、山本富士子が甘さのある味を出すのに数段の進歩をみせているのが目立つ(秀)

【写真はその一場面】

世界名画祭　読売ホール

第二回あなたの夢世界名画祭六日『ユーモレスク』七日『愛の調べ』八日『二人でお茶を』九日『巴里のアメリカ人』十日『カーネギー・ホール』毎朝十時より、有楽町駅前読売ホール

▽…ノドの病気で入院した鶴田浩二はひと頃、もう歌手としては駄目だなどといわれていたが、本人は案外平気で『まだ歌ってみえんだがね、どうでもいゝよ』とテレたようにノドをさすっていた

▽…ところが心配したのが彼のファンたちで、毎日のようにおしかけてはそのことを尋ねている、これを見て山本嘉次郎監督『いっそう浩ちゃん歌ってみたらどうだい』と東宝正月映画『男性NO・1』に鶴田の歌うシーンを入れちゃった、これで鶴田も歌手として再起できることが判ったわけだが、さて一番ホッとしたのは彼の専属レコード会社ビクターだったとはメデタシ、メデタシ【写真は鶴田浩二】

都々逸　石井きんざ選

堅いといっても脆さが有ってそこに眼がつく色事師　武蔵野・米島佐郎

夫婦ごけしのその仲よさも妬けて侘びしい独りもの　文京・木村いつ秋

去年の暮から笑った鬼が笑い通して年がゆく　千葉・坂亀鱗

おしゃべり横丁

初ユメ

力道山がオレに八百長を申入れて来たよ

—木村政彦

賀春　1955

撮影　風見武秀